

編集後記

COE 研究の派遣教員として滞在中のドイツ・ハンブルクで編集後記を書いています。「原稿が集まらない」「割付はどうする？」と大騒動の日本を逃れ、ようやく安住の地（研究の場）にたどり着くことができました。と思ったのは間違いで、回線を結ぶと同時に、国内と同じメールの山が押しかけてきました。こちらからも原稿催促や割付訂正依頼をくりかえす毎日。「文明の進化」というものは在外研究のスタイルさえ変えてしまうものなのですね。(H・N)

It is an enjoyable experience for me to be part of a Japanese team, working on a project as worthwhile as the 'Studies in Urban Cultures' journal. I think that I can learn a lot about how an academic journal is edited, and make useful relationships with staff members outside my department. Although my contribution is very limited, I hope that I can do my best to be of help. (R.)

『都市文化研究』の刊行にあたっては、都市文化研究の多様性、それらの底流に流れるべき「都市文化創造」という特色を、この雑誌の内容・構成に反映させるのに苦勞したように思います。委員長のリダーシップ、デザイナーや印刷所との折衝を担当したある教員(T.Y.)の尽力がなければ、とても雑誌刊行には至らなかったでしょう。(T.K.)

三ヶ月という短い期間で約40本の論文・記事を掲載した(しかもレフェリー付き)雑誌を刊行する、などということをミッション・インポッシブルというのです。それをポッシブルにしたのは編集委員のみならず、割付と校正を担当した花野孝史さん、編集補佐を務めた川口夏希さん、雑誌コンセプトを的確にデザイン化した門田充さんらであったということをごここに記して、感謝したいと思います。(や)